

るが、買いものができる場所も必要だ。

- ・韓国から来るようになってマリンレジャーでお金を使う人が増えている。チャーターしている。

- ・欧米が増えている。

(観光商工課：譜久島主事)

- ・消費額は日本人が 10 万円のところ、外国人は国の統計で 20 万円ほどだ。

(参加者)

- ・ウェディングで使うことも考えられる。貸し切りにすると問題も出て来るかもしれないが、撮影プランがあっても良い。撮影地として宮古島は県内で 2 番目だ。商工会でも取組んでいる。

- ・付加価値を付けて、お金を払ってでも行きたい場所にするべきだ。

- ・観光客から稼ぐが、地元の人を呼び水にする。

- ・親戚が来たら連れて行きたい場所にするべきだ。

- ・駐車場の後ろの畑は市の畑だが、返してもらうのか。

(JTB 総研：岩佐)

- ・駐車場は公園側に広げていく。少し伐採が必要となる。今のままではバスが入りづらい。今後は今の何倍も人が来るようになる。乗用車を駐車する場所も足りない。

(アドバイザー：石田)

- ・1 時間半滞在するとして、5~6 回転で最低 80 台ほどのスペースが必要だ。

(参加者)

- ・バスは 10 台程度必要ではないか。クルーズ船も一度にバス 10 台が来る。

(アドバイザー：石田)

- ・上手くローテーションするよう管理する必要がある。

(観光商工課：譜久島主事)

- ・管理者がいれば旅行会社とやり取りして管理できるようになる。

(参加者)

- ・バスの U ターン場所として来てもらう。ツアー会社によって行く場所が分けられている。そのやり取りをする必要がある。

- ・ツアーの中に入場料が組み込まれるだろう。

- ・駐車料金はどうするのか。

(JTB 総研：岩佐)

- ・一般客はカート利用や入園料を含めて 800~1000 円で、地元の人は無料にすることを検討している。仮に 20 万人が来ると 90 数%が観光客で、十分収益が出るようにする。

- ・逆にどれくらいだったら良いのか。

(参加者)

- ・宮古島に渡って有料駐車場に停めたことがない。

- ・新城で海に入る場合 2000 円だが、それを安いと思う内地の人がいる。

- ・何に使われるのか明確であれば払ってくれるのではないかな。

- ・展望台まで上がる間の道の横に何かを作れないのか。花壇の場所に売店は作れないのか。

(JTB 総研：橋本)

- ・ カートを走らせ、人が歩く。また緊急車両が入れるかどうかを検討する必要がある。
希少種があるようで拡張することは難しい。今ある幅で進めていく必要がある。

(参加者)

- ・ 楽しんで展望台まで行けるかを考える必要がある。
- ・ 電動キックボードはどうか。

(観光商工課：譜久島主事)

- ・ 歩行者も考えると危険ではないか。

以上

(7)伊良部地区意見交換会(2回目)

伊良部地区にお住まいの皆さま

伊良部牧山公園活用基本構想 意見交換会のお知らせ

令和6年12月吉日

宮古島市観光推進協議会事務局

日頃より宮古島市の観光振興にご協力いただき、ありがとうございます。牧山展望台の老朽化にともない、展望台の建て替えを含めた伊良部牧山公園全体の魅力向上を検討しています。自然環境を守りながら、地域住民の方の憩いの場や自然とふれあえる場としてより魅力的な場所を目指すとともに、より多くの観光客が訪れ、消費する場にしていくことで伊良部地域の振興に貢献できるよう、公園の改修について検討を進めております。このたび伊良部牧山公園活用基本構想の策定に向けて案をとりまとめましたので、地域住民の皆様のご意見をいただきたく、以下の通りご案内申し上げます。

記

- 日時 2024年12月18日(水)19時30分頃~20時30分(予定)
※同会場で18時30分から行われる「佐良浜中央線(仮称)道路整備に係る事業説明会」の終了後に始めますので、開始時間が前後する場合があります。
- 会場 伊良部公民館 会議室
- 主な内容
 - 伊良部牧山公園活用基本構想(案)の説明
 - 伊良部牧山公園活用基本構想(案)に関する意見交換
(地域住民の皆様が牧山公園に求める機能や役割、自然環境の保全に関することなど)
- ご参加方法 ご予約は不要です。当日会場までお越しください。
- お問い合わせ先 宮古島市観光推進協議会事務局
宮古島市観光商エススポーツ部 観光商工課 (担当:譜久島、洲崎)
メール: kanko@city.miyakojima.lg.jp / 電話:0980-73-2690

以上

議事録

業務	伊良部牧山公園活用基本構想意見交換会
日時	令和 6 年 12 月 18 日（水）19:30～20:30
場所	伊良部公民館
出席者	佐良浜地区住民 12 名
資料	牧山公園活用基本構想について

1. 開会

2. 挨拶

（観光商工課：砂川課長）

- ・市では牧山公園展望台の老朽化に伴い建て替えを考えている。また公園全体の魅力向上を検討している。本日は基本構想案を取りまとめているが、皆様のご意見を伺いたい。

3. 伊良部牧山公園活用基本構想案について

（JTБ 総研：橋本）

- ・資料にもとづいて説明。

4. 質疑応答・意見交換

（観光商工課：砂川課長）

- ・何かお聞きしたいこと、意見などがあれば伺いたい。

（参加者）

- ・基本構想はすでにできているのか。

（事務局）

- ・あくまで案だ。皆様から意見をいただいてブラッシュアップしていきたい。

（参加者）

- ・素晴らしい案だ。早く作っていただきたい。ただ 12 月ということが引っかかっている。

（事務局）

- ・今説明した内容が構想案の内容だ。それについて意見をいただいてブラッシュアップしていく。

（参加者）

- ・いつから始めるのかも知らなかった。ゼロからのスタートか。

（事務局）

- ・今年度中に意見をいただき、3 月までにまとめる。

（参加者）

- ・メンバーが限られている。

（事務局）

- ・何度かこの場を設ける。

(参加者)

- ・土日であれば問題ない。

(事務局)

- ・伊良部には7地区あると聞いている。昼と夜でそれぞれどちらの方が良いという人がいる。例えば二地区まとめて実施し、昼と夜の部があればたくさんの意見をいただける。自治会長と相談し1月の早い時期に実施し意見を反映させたい。改めて機会を設定させていただく。

(参加者)

- ・地域づくり協議会の会長をしていた。自治会を集めることができる。今後も各団体に意見を聞いてはどうか。すばらしいものだ、ぜひ実現した方が良い。ただ今まで情報がなかったため、おっしゃるようにしていただきたい。協力させていただきたい。団体、自治会長の集まりで呼びかけていきたい。

(事務局)

- ・今まで市役所内部で議論してきたが、白紙で皆様に提案しても意見が出にくいため、ある程度骨格ができてから提案させていただいた。
- ・伊良部では紙の資料を準備していたが、今回は何名が来られるかわからなかったためスクリーンで準備させていただいた。

(参加者)

- ・牧山公園内に陣地跡がある。その利活用はどう考えているのか。

(事務局)

- ・触らないつもりだ。ただ観光名所とするのではなく守っていくことを考えているが、それについても意見をいただきたい。
- ・危険なため立入禁止になっている。遊歩道も原生林を歩けるように残したい。

(参加者)

- ・相談した方が良い。
- ・伊良部に豊見氏親（うずぬしゅう）という実在の人物がいる。古文書が残っている。明日市と博物館の担当者と子孫の家に行って交渉に行く予定だ。親族からは了解を得ている。豊見氏親の祠がある。東屋の隣にある。博物館で引き取る予定だ。その後資料館に置いてはどうか。

(事務局)

- ・資料館はコピーでも良いかもしれない。
- ・後ろに写真を飾っているが、伊良部の町の昔の景色も、外から見ると貴重な資料だ。古文書そのものを展示することは難しいが、写真にして展示し説明していただくと、この島の歴史を観光客も理解でき、活用する価値がある。

(参加者)

- ・牧山公園の魅力は海の眺望だ。パノラマのようで対岸の島々も含めて眺望がすばらしい。展望台の下に広がる原生林や動植物はすばらしく、遊歩道が通っており散策ができる。非常に魅力があると思っている。20年前ほどからボランティアで道の整備や、客を案内して散策しているが、すばらしい岩を見ながら歩くコースができている。すばらしいところだと思っている。原生林をできるだけ残すと言っていたが、あまり開発をし過ぎて、自然の元の魅力が損なわれることがないようにしていただきたい。所々道が壊

れていて非常に歩きにくいところがある。例えば下牧の遊歩道もそうだが、下から上へ展望台が通っているが、壊れて通行禁止になっている。ぜひ遊歩道の補修をお願いしたい。以前県の予算で大規模な補修をしたことがあるが、その際はあまりにも開発し過ぎて味気ない道になってしまった。結果元に戻っている。それが自然の復元力のすばらしさでもあるが、補修はできるだけ元の自然が損なわれないよう、最小限の補修をしていただきたい。また駐車料金が掛かるとのことだったが、公園で駐車料金を取るところは他にあるのか。病院、空港はわかるが公園で駐車料金、入場料を取る場合、どこで取るのか。展望台に入るところで入場料を取るのか。不自然な感じがする。今の展望台はぱっと行って、ぱっと見られるところに魅力がある。電動カートやレストランが入る構想があるが、スタッフが必要となる。運営する必要も出て来る。どこが主体で運営するのか。市がするのか。指定管理にするのか。企業がするのか。そこをしっかりと決めないと、運営のリスクが非常に高い。どう考えているのかお聞きしたい。個人的には素朴な今の形態で、しっかり補修するべきだと思っている。展望台自体が老朽化しているとのことだったが、どう危ないのかについてもお聞きしたい。基本的には補修して、今の形をより安全に使いやすいように維持していくべきだ。入場料等は利用者にとって負担となるため、それだけの価値あるものを作れるのか。今のままでも価値がある。

- ・それを今後話し合って検討していくということだ。

- ・運営はどう考えているのか。

(事務局)

- ・入場料については、伊良部に来て橋が通って以来、沢山の人が毎日来ている。その方々の 13%が牧山に来ている。ただ昼食や土産はあるが、他の場所も含めてお金を払う場所がない。車が増えただけでにぎわっている感じがしない。一番の魅力である海の景色を活かせないかということでこの構想が出来上がってきた背景がある。遊歩道については、原生林を体感できることが一番の価値だ。ただ危険な箇所もある。車いすの方も含めてバリアフリーに対応する必要がある。図のオレンジの部分がカートコースだが、段差をなくし車いすでも利用できるようにする。他の部分も最低限安全に歩けるように整備する。下牧についてはこの構想には含まれていないが、ご意見を別途検討していきたい。運営が重要なポイントだと考えている。島外の方が運営すると、売り上げが島外に出てしまうため何としても避けたい。島内、もしくは市内の方が運営できるように何社か意見交換をして進めている。

(参加者)

- ・駐車場の隣に小屋がある。あれも利用できないか。内部を整備して店にできないか。また魚、食べ物を土産として売れないか。

(事務局)

- ・入場料を取る場合、駐車場の脇の小屋を改装して入り口にすることを考えている。土産も売るのであればその近辺に置く可能性はある。ただすぐ近くに海の駅があるため重複しないよう、カフェや景色を楽しむためのものに絞り込んで、買い物は海の駅でしていただくよう検討している。

(参加者)

- ・遊歩道は広げるのか。

(事務局)

- ・幅員は変えない。カートは片側通行だ。半分をカートが走り、半分を人が歩く。入場料を取ればカートは 10 台程度が必要と考えている。カートは路面に線を引くと自動で走り、あるスポットで停まるような設定になっている。一度お金を払えば、周遊しているカートに乗り降りできる。車庫は必要となる。カートは電動で 4-6 人乗りだ。常に回っているため、降りたカートはすぐ次の場所に行き、また乗りたい場合は次に来たカートに乗る。

(参加者)

- ・民間資本を活用するのか。行政では難しいのではないか。

(事務局)

- ・民間活力を活用する方法も視野に入れている。今までは指定管理が多かった。指定管理には良いところもあれば悪いところもある。PFI も同様だ。できれば島の業者に担当していただきたい。どうしたら引き受けてもらえるのかを前提に、指定管理か PFI かを検討したい。

(参加者)

- ・完成はいつになるのか。

(事務局)

- ・今回構想案ができて、来年基本設計を行い、その後実施設計をし、令和 9 年に工事着工を考えている。
- ・完成は工事の状況によるが、令和 10 年か 11 年春か。あくまでも予定だ。
- ・今の段階で地域の方が求めていることを知りたい。できれば子育て世代の若い方もいれば良いが、今後意見を集めていきたい。

(参加者)

- ・先日ワークショップをしたが、牧山の話が出ない。行政の中で横の連携はどうなっているのか気になる。いつも決まった人たちが集まる。もう少し課を統合した取組ができないか。
- ・PFI とは具体的に何か。

(事務局)

- ・指定管理は行政が作り運営だけを民間に委託する。PFI は民間が作り運営する。それを行政がサポートする。どれくらいのものを作るのか、価値があるのかでどちらの方法が決まってくる。

(参加者)

- ・この構想の中で、ランニングコストの目安は決まっているのか。これから算出するのか。13%が牧山に必ず来るとは限らない。データを取って進めていることはあるのか。

(事務局)

- ・宮古島に来ている 9 割の人が伊良部大橋を渡り、その 13%が牧山に来ている。リニューアルして良い施設ができれば、これが 20%に上がる想定をしている。あくまでシミュレーションだ。現在来ている観光客の 20%が 1,000 円ほどを払う場合、約 2 億円の売り上げがあると考えている。展望台の費用については、外観や内部の内容を詰めて金額を算出する段階だ。

(参加者)

- ・以前から宮古島はエコアイランドを謳っている。どこがエコなのかわからない。でき

ればこういった施設で PR できるようなものを作るべきではないか。太陽光で蓄電池を作りカートの電力を賄う。また街灯を風力発電で電気を作る。それが見えると作った価値があるのではないか。それを観光客に見てもらうと、より良い施設になるのではないか。

(事務局)

- ・トイレや通路の電気も太陽光で賄うことは良い案だ。また雨水をためる施設があれば災害時に備えられる。水も宮古島にとって貴重なものだ。大変貴重なご意見だ。

(参加者)

- ・最近小型化した風力発電が出て来ている。宮古島で見られれば楽しい。

(事務局)

- ・持続可能性は欠かせない。省資源だけではなく、自然を解説するボードを置き、生態系についても知っていただく機会にしていきたいと考えている。
- ・夜間に電気を点けるべきかについても検討していきたい。固有種は大切にすることがある。

5. 閉会

以上

(8)伊良部地区区長への説明会

伊良部地区 区長の皆様

伊良部牧山公園活用基本構想に係る 意見交換のお願い

令和6年 12 月吉日

宮古島市観光推進協議会事務局

日頃より宮古島市の観光振興にご協力いただき、ありがとうございます。牧山展望台の老朽化にともない、展望台の建て替えを含めた伊良部牧山公園全体の魅力向上を検討しています。自然環境を守りながら、地域住民の方の憩いの場や自然とふれあえる場としてより魅力的な場所を目指すとともに、より多くの観光客が訪れ、消費する場にしていくことで伊良部地域の振興に貢献できるよう、公園の改修について検討を進めております。このたび伊良部牧山公園活用基本構想の策定に向けて案をとりまとめましたので、地域を代表して皆様のご意見をいただきたく、以下の通りご案内申し上げます。

記

- 日時 2025 年 1 月 9 日(木) 18 時 30 分頃～1 時間程度(予定)
※区長会の時間を一部頂戴できればと思います。
- 会場 レストラン入江(宮古島市伊良部 1493-1)
- 主な内容
 - 伊良部牧山公園活用基本構想(案)の説明
 - 伊良部牧山公園活用基本構想(案)に関する意見交換
(地域住民の皆様が牧山公園に求める機能や役割、自然環境の保全に関することなど)
- お問合せ先 宮古島市観光推進協議会事務局
宮古島市観光商エスポーツ部 観光商工課 (担当:譜久島、洲崎)
メール: kanko@city.miyakojima.lg.jp / 電話:0980-73-2690
- その他 佐良浜地区にて、住民の皆様を対象とした意見交換会を別途検討中です。
佐良浜地区以外にお住まいの方にもご参加いただきたく、ご案内いただけますと幸いです。

以上

議事録

業務	伊良部牧山公園活用基本構想意見交換会（伊良部地区）
日時	令和 7 年 1 月 9 日（木）19:00～20:00
場所	レストラン入江
出席者	伊良部地区区長 4 名、宮古島市伊良部商工会経営指導員 宮古島市観光商工課：砂川課長、洲崎係長、譜久島主事 JTB 総研：橋本、金沢
資料	牧山公園活用基本構想について

1. 開会

2. 挨拶

（観光商工課：砂川課長）

- ・市では牧山公園展望台の老朽化に伴い建て替えを考えている。また公園全体の魅力向上を検討している。本日は基本構想案を取りまとめているが、皆様のご意見を伺いたい。

3. 伊良部牧山公園活用基本構想案について

（JTB 総研：橋本）

- ・資料にもとづいて説明。

4. 質疑応答・意見交換

（参加者）

- ・トイレがない。

（事務局）

- ・駐車場と展望台にトイレを置く予定だ。今のトイレは潰して、展望台の 1 階に入れる。階段の下だ。一度更地にする。

（参加者）

- ・敷地はどの程度まで広げるのか。

（事務局）

- ・展望台や広場はこれ以上広げないが、入口の駐車場は広げる必要がある。

（参加者）

- ・駐車場は狭い。

（事務局）

- ・雑木林のあたりを広げる必要がある。

（参加者）

- ・右に曲がると洞窟がある。向こうも含めて検討しているのか。

（事務局）

- ・敷地には入っているが、洞窟には触らない。

(参加者)

- ・戦争当時の遺跡が残っている。この小さい島にも戦争の遺跡があったことを伝える必要がある。看板を立ててはどうか。以前は入れた。雨でぬかるむ。
- ・観光客が増えると人は立ち寄る。整備をする必要がある。
- ・展望台のガラスは台風には耐えられるのか。風速が 60m にもなる。

(事務局)

- ・展望カフェの目線の高さだけガラスにする方法もある。柱も必要だ。

(参加者)

- ・潮風で透明度が薄れる。崖で掃除はできるのか。

(事務局)

- ・屋上から降りて掃除するか。
- ・掃除しやすい形にする必要がある。

(参加者)

- ・ガラスがない方が見やすいのではないか。

(事務局)

- ・屋上に行けば見ることが出来る。

(参加者)

- ・台風を考慮して作る必要がある。公園の遊具も最低でも 60-70m の風に耐えられるように設計するべきだ。高台のため風が強い。またあの高さでも塩分が飛んで来る。

(事務局)

- ・海の駅もガラスだがネットを張っている。

(参加者)

- ・舞い上がった塩が落ちてくる。塩害対策も必要だ。作ることに限っては賛成だ。30-40 年続くようなものになるようお願いしたい。
- ・いつ頃を予定しているのか。

(事務局)

- ・来年度設計して、再来年度工事予定だ。今年は構想段階だ。

(参加者)

- ・地元の事業者と協力していただけるとありがたい。
- ・若い人たちの意見はわかりやすい。
- ・3 階建てか。

(事務局)

- ・1 階と 2 階があり、屋上がある。

(参加者)

- ・最近ヒルトンに行ってきた。時間があつたため確認すると 8 階にテラスがあつた。風が強かった。寒くて長居はできなかった。ただ伊良部大橋が見えて夜はライトがきれいだった。夏は気持ち良さそうだった。これもそのような場所になると良い。展望する場所をガラス張りにして、冬場の風よけにしてもらえればありがたい。

(事務局)

- ・サシバの形はこだわりがあるか。

(参加者)

- ・確かにあった方が良かったが、別の場所では危険ということで撤去して台だけ残した。見栄えは良いが海を見る場合、こだわる必要はないのではないか。
(事務局)
- ・経費もかかり、耐久面の問題もある。
(参加者)
- ・基本的には展望台だ。島と海と水平線が見えて皆が感動できれば良い。
(事務局)
- ・羽を広げた形で考えているが、今のようにはっきりとした形にはならない。
(参加者)
- ・専門的な設計が必要だ。維持管理費もかかる。以前作ってくれた人は、もうメンテナンスが出来ず残念がっていた。サシバにはこだわらない。若い世代はどう思っているか。
(事務局)
- ・中央の通路は今のままでは寂しいためどうするか。楽しめるアイデアはあるか。
(参加者)
- ・駐車場を奥まで食い込ませることはできないのか。歩く距離を短くする。
- ・300mは厳しい。アクセスを100mにすればカートは要らない。メンテナンス等経費も掛からない。
- ・今後50代以上の客が多くなる。大型バスが5台来ても停まれるようにしてはどうか。カートは小人数しか乗れない。
(事務局)
- ・4人乗りを10台考えている。自動運転だが、バスが来たら連結して大量輸送も考えている。左側をカート、右側を歩道に分ける。
- ・ボタンを押せば前に進み、所定の位置に来たら停まる。システムで管理する。
(参加者)
- ・100mまで縮められるかどうか検討していただき、空いている広場を遊べる場所にしてはどうか。
- ・歩かせるべきだ。島の人には歩くことが苦手だが、観光客は慣れている。写真を撮って歩く。SNSで発信していただく。
(事務局)
- ・今は単調で先が見通せない。花を植えてはどうか。
(参加者)
- ・両サイドで立ち止まって写真が撮れる場所があると良い。何もないと厳しい。椿は今の時期に咲く。桜も枯れているものもある。
(事務局)
- ・長い距離を歩かせる理由として、団体が入って来ると混雑するが、歩かせるとそれぞれのペースで歩くため分散されるメリットがある。
- ・入場料を取ればカートを導入しても良い。
(参加者)
- ・カートについては全体会で検討するべきだ。
(事務局)
- ・入場料を取る前提で試算している。ドイツ村、海中公園、ユートピアパークが入場料

を取っている。

(参加者)

- ・ 景観だけで取ることは可能か。

(事務局)

- ・ 日本各地で入場料を取るテラスが増えている。1000 円程度では全く問題ない。駐車場も白川郷の世界遺産では 500 円かかる。他では見られない景色が見られ、ブランコにも乗れば払う。

(参加者)

- ・ 宮古島全体でのバランスも検討していただきたい。

(事務局)

- ・ 前提として観光客が料金を支払う。今年のアンケート調査では項目を変えて、何に使ったのかが分かるアンケートを取った。入場料の項目で、来る前に使う予定だった金額よりも、実際に使った金額の方が少なかった。お金を払って入る施設があると思って来たが、意外になかったということだ。旅行はお金が掛かるものという前提があるのではないかとわかってきた。料金を取る仕組みでも良いのではないかとということで、このアイデアが出てきた。

(参加者)

- ・ 公園の管理維持費であれば理解できる。
- ・ どれくらいの予算を見ているのか。収益は出るのか。整備に費用がかかるのではないか。

(事務局)

- ・ 数億円と試算している。

(参加者)

- ・ 宮古島の入域観光客数のどれくらいが来るのか。

(事務局)

- ・ 去年は 2 割弱だった。
- ・ 牧山が 13%だったが、伊良部島に来る人は多い。現状ではこの結果だが、工夫すればもっと来るのではないか。

(参加者)

- ・ 入場料だけでは運営できないのではないか。テナントの収益も必要だ。ただ料金を上げると逆に入って来ない。
- ・ いかに公園まで足を延ばしてもらうか。

(事務局)

- ・ 現状の宮古島には座ってゆっくり景色を見られる場所が少ない。

(参加者)

- ・ 上から見下ろすところがない。ここはほとんどが一望できる。いかにして SNS に載せて発信するか。
- ・ 若い世代が多い。地元の人間が知らないことも知っていて現場に来ている。

(事務局)

- ・ 今の展望台も口コミで景色が良いと言われているが、トイレなどが古いという口コミもある。

(参加者)

- ・多良間や八重山も見える。
- ・地図を置いてどこが見えているのか案内が必要だ。
- ・テラスで生ビールが飲めると良い。
- ・皆様が言うように、いかにお金を地元に落とすかを考えていただけると良い。

(事務局)

- ・また随時ご意見を伺いたい。

(参加者)

- ・月に1回第1木曜日に集まっている。その際に来ていただけると良い。
- ・伊良部全体で集まりをしたいが、佐良浜は遠いのでなかなか集まらない。
- ・地域づくり協議会も集めて全体的に集まると良い。

5. 閉会

以上

(9) 佐良浜地区住民への説明会

伊良部地区にお住まいの皆様

伊良部牧山公園活用基本構想に係る 意見交換会のご案内

令和7年1月吉日

宮古島市観光推進協議会事務局

日頃より宮古島市の観光振興にご協力いただき、ありがとうございます。牧山展望台の老朽化にともない、展望台の建て替えを含めた伊良部牧山公園全体の魅力向上を検討しています。自然環境を守りながら、地域住民の方の憩いの場や自然とふれあえる場としてより魅力的な場所を目指すとともに、より多くの観光客が訪れ、消費する場にしていくことで伊良部地域の振興に貢献できるよう、公園の改修について検討を進めております。このたび伊良部牧山公園活用基本構想の策定に向けて案をとりまとめましたので、地域を代表して皆様のご意見をいただきたく、以下の通りご案内申し上げます。

記

- 日時 2025年1月21日(木) 17時頃～1時間程度(予定)
- 会場 前里添多目的共同利用施設(宮古島市伊良部536)
- 主な内容
 - 伊良部牧山公園活用基本構想(案)の説明
 - 伊良部牧山公園活用基本構想(案)に関する意見交換
(地域住民の皆様が牧山公園に求める機能や役割、自然環境の保全に関することなど)
- お問合せ先 宮古島市観光推進協議会事務局
宮古島市観光商エススポーツ部 観光商工課(担当:譜久島、洲崎)
メール: kanko@city.miyakojima.lg.jp / 電話:0980-73-2690

以上

議事録

業務	伊良部牧山公園活用基本構想意見交換会
日時	令和 7 年 1 月 21 日（火）
場所	前里添多目的共同利用施設
出席者	佐良浜地区（前里添、池間添）住民 15 名 宮古島市観光商工課：砂川課長、洲崎係長、譜久島主事 JTB 総研：橋本、金沢
資料	牧山公園活用基本構想について

1. 開会

2. 挨拶

（観光商工課：砂川課長）

- ・市では牧山公園展望台の老朽化に伴い建て替えを考えている。また公園全体の魅力向上を検討している。本日は基本構想案を取りまとめているが、皆様のご意見を伺いたい。

3. 伊良部牧山公園活用基本構想案について

（JTB 総研：橋本）

- ・資料にもとづいて説明。

4. 質疑応答・意見交換

（参加者）

- ・基本的にはサシバの形にするべきではないか。

（事務局）

- ・翼を広げた形は残す方向で考えている。

（参加者）

- ・この地図だけではわかりにくい。カートはどこに置くのか。
- ・どの程度の大きさにするのか。
- ・当初から駐車場の料金を取るのか、段階を踏んで徴収するのか。
- ・指定管理となるのか。地元には縛りがあると何のための地元の施設なのかということになる。

（事務局）

- ・市としては伊良部の業者にさせていただきたいと考えている。伊良部で管理し伊良部にお金を落としていく。
- ・カートについては、駐車場から展望台まで 300 メートルほどあるが、1 周のコースで 10 台程度を想定している。自動運転のためボタンを押して、いくつかの駐車場で乗り降りできる。団体客へはカートを連結して提供する。
- ・コースを外れることはない。

(参加者)

- ・ ゆくい広場は松の木だけ残して眺望を良くするべきではないか。

(事務局)

- ・ できるだけ活かしたい。かつてツリーハンモックがあった。伐採は基本的に行わない。伸びてきて視界が十分ではないところもあるため、必要な枝打ちは考えている。松林には手を入れない。遊歩道の東側は樺の木がある。根から切ることは考えていない。
- ・ 海が見えるところはきれいにカットする。
- ・ ウッドデッキにするだけでも雰囲気が出て視界も高くなる。

(参加者)

- ・ 防空壕の活用はどう考えているのか。照明を入れるのか。

(事務局)

- ・ 今のところは、立ち入り禁止を検討している。
- ・ 防空壕を見ていただきたいか。入ってほしくないという人がいるのか。看板を作って入れないようにすることを検討していた。

(参加者)

- ・ 中から海が見える。
- ・ 遠足でも見に行ったことがある。閉めるだけではなく活用するべきではないか。景観も良い。
- ・ ぜひ見ていただきたい。
- ・ 上からも行くことが出来る。
- ・ 料金を取ることは賛成だが、指定管理となるとどう地域に還元するのか。

(事務局)

- ・ 伊良部が宮古島市内の事業者の管理を想定している。
- ・ 地域の人を雇用する。地域に売り上げを渡すということではない。
- ・ 以前の調査では、宮古島に来た方の 13%、8 人に 1 人が牧山公園を訪れている。宮古島には年間 100 万人程度が来ている。絶景スポットは多いが、じっくり座って楽しめる施設は他にない。

(参加者)

- ・ 現在の遊歩道のそばの木は道路に出ている。上だけ残して下は切ってしまうべきだ。カートも通りにくい。

(事務局)

- ・ 一部狭い箇所があるため、最低限手を入れる必要がある。カートが小さいため道を広げる必要はない。カート会社の人に来てもらったが、今の道路の幅で問題ないとのことだった。カートに係る場所は枝を切る。現状では他には寄ろうと思われていないが、カートに乗りたい人は寄るようになる。できるだけ長い時間滞在してもらう。

(参加者)

- ・ 地域製品の販売とあるが、海の駅が近くになる。競合するのではないか。展望台が独自の形を取らないと素通りしてしまう懸念もある。競合しないように両方とも行ってもらいたい。地域独自のもの、業者、働く人の雇用を考え、総合的に進めるべきだ。競争になるともったいない。

(事務局)

・両方行ってもらわなければならない。競い合っても仕方がない。相乗効果を考えている。テラスで提供する飲食は、カフェで伊良部ブルーのソフトクリーム、インスタ映えするドリンク、簡易なものでかぶらないものを考えている。食事やお土産は海の駅で買ってもらう。カフェ、景色を楽しむために展望台に来てもらう。

(参加者)

・滞在時間を長くする工夫をするべきだ。

(事務局)

・1階で動画展示を見ていただく。2階と3階それぞれに行ってもらい景色を楽しんでもらう。

(参加者)

・どこまでの構想か。指定管理はどこの地区がするのか。

(事務局)

・未定だ。

(参加者)

・入場料は施設の入場料か。

(事務局)

・入場料で駐車場と展望台まで行くことができる。

(参加者)

・車いすはどうするのか。

(事務局)

・遊歩道は十分な幅を確保している。電動カートに車いすを積み込んで運ぶことになる。展望台はエレベーターを設置する。入場料について駐車料金と両方取るのかはまだ未確定だ。基本的には公園のエリアに入っていただくための料金として考えている。カートは乗り放題で、展望台にも入ることができる。

(参加者)

・カフェだけでは展望台でゆっくりできず入らないのではないか。

(事務局)

・一案として宮古島にない足湯を置いてはどうかと考えている。今後実際に作る際に指定管理候補者と対話して決めていく。

(参加者)

・指定管理者も入れて設計するべきだ。

(事務局)

・1社に決めてやり取りするよりも何社かと対話を重ねていく。

(参加者)

・観光案内を置くのか。

(事務局)

・専属ではないが、スタッフは必要だ。入場料金等を支払う場所等誰かがいる予定だ。

・管理する業者の自主事業でツアーガイドがあっても良いと考えている。一緒に検討したい。

(参加者)

・「まきやま」という名前はどこから生まれたのか。

- ・展望台ができた時には「まきやま」だった。

(事務局)

- ・伊良部の歴史、自然についても展示する。展示内容は直前の検討でも可能だ。
- ・再来年に設計し、翌年に工事に入る予定だ。構想は今年度で終わり、それに向けての予算取りなどを行う。

(参加者)

- ・橋が見える広場に昭和 60 年頃写真を撮りに行ったが、木材の何かがあった。

(事務局)

- ・山側の多目的広場は子どもたちが楽しめる場、海側は景色を見る大人向けの広場を考えている。
- ・契約条件は細かく決めていないが、伊良部の人と意見交換していく。全体の管理は大掛かりなものだが、キッチンカーで様々な人が少しずつ関われないかという意見が出ている。

(参加者)

- ・広場を作り何台か置いて、手作りのものを提供するようにしてはどうか。

(事務局)

- ・ゆくい広場は 1, 2 台か。場合によっては駐車場、海の駅か。
- ・設計で測量して検討する。公園は全体的に一事業者に管理してもらい、事業者内でテナントを募集して、指定管理者と契約してもらう。可能な限り毎日営業してもらいたい。

(参加者)

- ・キッチンカーを入れると海の駅とかぶらないか。

(事務局)

- ・具体的な話はまだない。
- ・海の駅はそばを提供しているが、バッティングしないように検討する必要がある。
- ・スーパーの駐車場でキッチンカーが出ていることがあるが、店の中でも同じものを置いている。施設全体の魅力づくりで行う。1 ヶ所で客の欲しいものが賄えるわけではない。足りない部分をキッチンカーで補う。全体の魅力づくりになる。

(参加者)

- ・曜日を決めてキッチンカーを置いているところがある。曜日ごとにキッチンカーを変えてはどうか。

(事務局)

- ・具体的な内容は今後検討するが、展望テラス内にもカフェがあり、基本的には建物内で食べてもらい時間を過ごしてもらう。その上でさらに歩いて、ゆくい広場で別のものを食べる。できるだけ消費ポイントを多く作りたい。

(参加者)

- ・ガラス張りは 360 度か。

(事務局)

- ・パノラマは屋上を考えている。屋上は転倒防止策設置の法律がある。安全確保と眺望を両立することを考えている。内側を高めにすることはできるため、人だかりで見られないということはない。

(参加者)

- ・市としては指定管理を入れて牧山公園を維持していくことが前提か。指定管理料として年間いくらで委託するのか。年間 100 万人以上が訪れる宮古島の観光資源として、使いようによっては儲かる施設だが、年間 1,000 万円で貸したほうが儲かる場合もある。その資金で他の投資ができると思われるかどうか。

(事務局)

- ・指定管理にこだわってはいない。令和 3 年度に民間活力を導入しサウンディングを行った。地元の方に携わらせてほしいという意見が多かった。民間に貸し出す場合、すべてを任せると地元の方が従業員としては入れるが、地域のものが残りにくいということがあり、地元の人が携わりやすい指定管理を考えている。管理料は今後試算するが、管理料をゼロで、売り上げを上げていただき残った利益の 1/2 は制度上返してもらう。今ある条例の中でできる。大型の内地の資本が入ることは宮古のためになるのか。観光サイドと財政サイドでの検討となるが、地元の人が誇りを持ってもらえるようなところを作っていくために、現在は指定管理に落ち着いている。

(参加者)

- ・稼げる施設にするよりも、市としての税金を使った方が良いということか。

(事務局)

- ・整備についてはそうだ。運営では収益を上げてもらいたい。毎年少しずつ満足度を上げて、お金を落としてもらえる施設になってほしい。

(参加者)

- ・維持管理コストは相当掛かる。電動カート、草刈りも費用が掛かる。それも含めて指定管理で良いのか検討するべきではないか。

(事務局)

- ・指定管理よりも良い方法があればそちらも検討する。

(参加者)

- ・あと 3 年しかない。

(事務局)

- ・意見交換の場を今まで取れていなかった。市には観光推進協議会があり、牧山についても商工会や市内の観光事業者と検討していた。指定管理の話し合いも行ってきた。

(参加者)

- ・協議会のメンバーに伊良部の人が入っていないためわからない。

(事務局)

- ・青年部も入っている。伊良部出身の人も入っている。

(参加者)

- ・改修を先にして、この話はゆっくり時間をかけて行っても良い。

(事務局)

- ・協議会で議論していく中で、2 年ほど前に伊良部地区の方にも意見を聞く機会があった。ある程度の方向付け、形を作らないと漠然として意見をいただくことが難しい。今日で決定ではなく皆様の意見を含めてより良いものにしていきたい。

(参加者)

- ・これまで 3 力年の構想を示していただけるとどういうものかわかる。

(事務局)

- ・ 構想としてアイデアをまとめている段階だ。本日の意見も反映させたい。次年度以降も地域の方と進めていきたい。

(参加者)

- ・ 観光客が増えていくと思われるが、伊良部は素通りされている。池間島入り口は必ず泊る。そういうところを伊良部にも作ることができれば良い。

(事務局)

- ・ 滞在時間が短い。現在は 15-30 分程度だ。伊良部の観光地とはなっていない。アンケートでも入場料を取るものだと思っていたが使っていないという結果が出ている。入場料を取る施設があり立ち寄ってもらうことは現実味がある話だ。その一つとしてここに立ち寄ってもらえると良いと考えている。

(参加者)

- ・ 予算はどの程度か。

(事務局)

- ・ 要求しているがまだ決まっていない。ある程度構想を固める必要がある。
- ・ 今回防空壕に入ってもらいたいという意見を初めて聞くことが出来た。検討していきたい。今後も説明会を開催していく予定だ。ぜひ参加していただきたい。

5. 閉会

以上

2-2. 受入キャパシティの評価査定

(1) 第1回宮古島市観光推進協議会資料

株式会社 JTB総合研究所

資料4-2

受入環境の検討について

2024年7月

宮古島市観光推進協議会 事務局

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

受入環境の検討について

株式会社 JTB総合研究所

今年度は以下の取組を通じて宮古島市における観光客受入環境の現状・課題の把握や課題解決の推進を図る。

① 受入キャパシティのモニタリング

- 宮古島市における入域観光客数とその受け入れに必要となる観光客向けインフラ、住民向けインフラについて、その必要量や供給状況についてのモニタリングを行い、課題や必要な対応について議論していく。

② 観光アンケートの通年化による観光客の動態把握

- 宮古島市に訪れる観光客の実態や意向、消費動向を把握することで、今後の市の観光推進における検討素材とする。
 - 旅ナカ消費の実情把握（予算額、実際支出、販売機会ロス）
 - 追跡調査による旅アト消費の実情把握（旅アトの消費行動、消費額）
 - 二次交通の利用の動態把握
路線バス、ループバス、レンタカー、タクシー、レンタサイクルの認知、利用率
同乗人数、今後の利用意向等

③ 大学との連携による観光人材誘致

- 宮古島市への将来の就職希望者を増やすため、観光学部・観光学科のある大学に向けて、インターンシップや就職に関する実情と意向を把握するためのアンケート調査を実施し、大学とのネットワーク構築を図る。

住民の所得と生活の質の向上

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

2

1. 受入キャパシティのモニタリング

入域観光客数および滞在人口推計（2024年度）

2023年度の入域観光客数は、938,178人で、2019年度比88%まで回復してきた。空路観光客数では2019年度を16%ほど上回っており、その結果観光収入は大幅に伸び、2019年度比143%の実績となっている。

2024年度入域観光客数の推計

2019年度に対する2023年度の空路観光客数の伸び率と、2022年度から2023年度の伸び率から推計した結果、2024年度の空路観光客数は、979,661人、人泊数は2,841,016人となり、海路観光客を含め1,000億円を超える観光収入を見込むことができる。

	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024) 推計	対前年 伸び率	計画最終年 度(2028) 目標	2024年度の推計方法 (2019年から2023年までは実績数字)
入域観光客数：人	1,061,323	359,592	434,969	736,990	938,178	1,139,871	121.5%	2,000,000	
（うち空路観光客）	733,391	359,592	434,969	736,639	848,559	979,661	115.4%	1,050,000	2019年度に対する2023年度の伸び率（115.7%）と、2022年度から2023年の伸び率（115.2%）の平均（115.5%）を前年実績に掛けて推計
（うち海路観光客）	327,932	0	0	351	89,619	160,210	178.8%	950,000	2023年4月～8月のクルーズ船1隻当り客数（1,574人）と、2019年度の1隻当り客数（2,755人）の平均値（2,165人）を、本年度12月までに入港予定の隻数（74）に掛けて推計
人泊数（空路観光客のみ）	1,928,818	945,727	1,230,962	2,106,787	2,460,821	2,841,016	115.4%	3,045,000	2022年度の平均滞在日数：2.90日を乗じて推計（沖縄県観光統計実態調査）
みなし人口（空路客）	5,284	2,591	3,372	5,772	6,741	7,783	115.5%	8,342	人泊数÷365
みなし人口（海路客）	449	0	0	0	122	219	179.5%	1,301	海路観光客÷365÷2
居住人口	55,434	55,577	55,466	55,539	55,690	56,353	101.2%	59,083	2019年度に対する2023年度の伸び率（100.46%）と、2022年度に対する2023年の伸び率（101.91%）の平均（101.19%）を前年実績に掛けて推計
滞在人口（観光客及び居住者）	61,168	58,168	58,838	61,311	62,553	64,355	102.9%	68,726	みなし人口と居住人口の合計
観光収入：百万円	63,634	35,044	42,390	77,963	91,105	106,006	116.4%	124,929	（空路観光客数×105,830円）＋（海路観光客数×14,535円） 乗算は「観光統計実態調査」（2022年度沖縄県）による

※2028年度の空路客と海路客は「第2次宮古島市観光振興基本計画」の目標値。
※2023年度以降の人泊数は、空路観光客に2022年度の平均滞在日数（2.90泊）を乗じて算出。
※2023年度以降の居住人口の推定は、2019年度に対する2023年度の伸び率（100.46%）と、2022年度に対する2023年の伸び率（101.91%）の平均（101.19%）を前年実績に掛けて推計。
※みなし人口
宮古島市滞在期間中の入域観光客を、宮古島市の生活インフラを消費する人口とみなしたもの。
※観光収入（当初目標）
第2次宮古島市観光振興基本計画における2028年度目標額は949億円である。

…伸び率の算出の基準年

…推計値

※みなし人口の推定方法
①空路客は1人あたり人口1日分で計算する。
（空路客入泊数÷365）
②海路客は1日のみの滞在なので、1人あたり人口半日分として計算する。（海路客数÷365÷2）
※滞在人口
みなし人口に居住人口を加えたもの。

2019年度を基準に、前ページで推計した2024年度の観光客数をもとに、必要となる宿泊施設収容人員・レンタカー台数・貸切バス台数及び空港の年間乗降客数を推計した。

	基準年 令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	推計/仮定 令和6年度 (2024)	令和元年度 (2019年度)に 対する 令和5年度(2023 年度)の増加数	2023年度の推計方法
入域観光客数	1,061,323	359,592	434,969	736,990	938,178	1,139,871	78,548	2023年度の空路観光客数の推計値と海路観光客数の推計値の合計
空路観光客数	733,391	359,592	434,969	736,639	848,559	979,661	246,270	2019年度に対する2023年度の伸び率(115.7%)と、2022年度から2023年の伸び率(115.2%)の平均(115.5%)を前年実績に掛けて推計
人泊数合計(空路観光客)	1,928,818	1,017,645	1,244,011	2,136,253	2,460,821	2,841,016	912,198	空路観光客推計値に、2022年度の平均滞在日数:2.90日をかけて推計
1日平均宿泊者数	5,284	2,788	3,408	5,853	6,742	7,783	2,499	人泊数合計÷365で算出
ピーク月(10月)宿泊者数推計	6,975	5,191	4,959	7,977	9,189	10,296	3,321	05年の月平均空路観光客数に対するピーク月(10月)の空路観光客の倍率(1.323)より算出
海路観光客数	327,932	0	0	351	89,619	160,210	-167,722	2023年4月～8月のクルーズ船1隻当り乗客(1,574人)と、2019年度の1隻当り乗客(2,755人)の平均値(2,165人)を、本年度12月度までに入港予定の隻数(74)に掛けて推計
↓ 以下の推計値は、2023年度の乗客内の数値を基準として算出した各インフラの必要数量								
宿泊施設数	285	389	411	456	496	419	134	2019年度の空路観光客1人泊数当たりの宿泊施設数に、2024年度の空路観光客推計値(人泊数)を乗じて推計
宿泊施設収容室数	3,935	4,775	5,599	5,908	6,537	5,785	1,860	2019年度の空路観光客1人泊数当たりの収容室数に、2024年度の空路観光客推計値(人泊数)を乗じて推計
宿泊施設収容人員	10,215	12,739	15,063	15,870	17,823	15,045	4,830	2019年度の空路観光客1人泊数当たりの宿泊施設収容人員に、2024年度の空路観光客推計値(人泊数)を乗じて推計
レンタカー台数	3,227	3,202	3,526	5,259	6,082	4,753	1,526	2019年度の空路観光客1人泊数当たりのレンタカー台数に、2024年度の空路観光客推計値(人泊数)を乗じて推計
レンタカー従業員数(4社合計)	75	-	53	-	-	-	-	主要4社へのヒアリング結果
貸切バス台数	96	95	80	80	84	103	7	2024年度の入域観光客推計値を2019年度の入域観光客数で割り、2019年度の貸切バス台数を乗じて推計
貸切バス乗務員数(主要バス会社)	32	-	24	-	-	-	-	主要バス会社へのヒアリング結果
空港年間着陸回数(宮古・下地島)	8,735	7,191	8,235	10,561	10,106	11,668	2,933	2024年度の空路観光客推計値を2019年度の空路観光客数で割り、2019年度の年間着陸回数に乗じて推計
空港年間乗降客数(宮古・下地島)	1,929,127	1,136,408	1,060,636	1,732,670	2,232,067	2,576,920	647,793	2024年度の空路観光客推計値を2019年度の空路観光客数で割り、2019年度の年間乗降客数に乗じて推計

「空路観光客数」の伸び率から算出した推計→①空港年間着陸回数 ②空港年間乗降客数

※2021年以降の下地空港は国土交通省「空港管理調査」による。

「人泊数合計(空路観光客)」の伸び率から算出した推計→

①宿泊施設収容人員 ②レンタカー台数

「入域観光客数」の伸び率から算出した推計→ ①貸切バス台数

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

	・・・ 基準値
	・・・ 実績値
	・・・ 推計値

5

観光に必要なインフラの2019年度以降の伸び率をみると、宿泊施設、レンタカーは観光客数の増加を越える伸び率を示している。

一方貸切りバス台数は、2019年度時点から2022年度まで減少したままとなっている。

空路に関しては、2022年の着陸回数は2019年比で1.21となっているが、年間乗降客数は0.90にとどまっている。

年間乗降客数が減少した理由としては、宮古島市民の利用が減少した可能性も考えられるが、主な要因としては空路観光客の平均滞在日数が、2.63日から2.90日(+10%)に伸びたためと考えられる。

	基準年 令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	2019年度→ 2022年度 伸び率	2019年度→ 2023年度 伸び率	算出方法
入域観光客数	1,061,323	359,592	434,969	736,990	938,178	0.69	0.84	空路観光客数の推計値と海路観光客数の推計値の合計
空路観光客数	733,391	359,592	434,969	736,639	848,559	1.00	1.14	
海路観光客数	327,932	0	0	351	89,619	0.00	0.27	
人泊数合計(空路観光客)	1,928,818	1,017,645	1,244,011	2,136,253	2,460,821	1.11	1.26	空路観光客推計値に、当該年度の平均滞在日数(2022年度=2.86日、2023年度=2.90日)をかけて算出
ピーク月(10月)宿泊者数推計	6,975	5,191	4,906	7,867	9,062	1.13	1.30	05年の月平均空路観光客数に対するピーク月(10月)の空路観光客の倍率(1.323)より算出
宿泊施設数	285	389	411	456	496	1.60	1.73	
宿泊施設収容室数	3,935	4,775	5,599	5,908	6,537	1.50	1.64	
宿泊施設収容人員	10,215	12,739	15,063	15,870	17,823	1.55	1.74	
レンタカー台数	3,227	3,202	3,526	5,259	6,082	1.63	1.88	
貸切バス台数	96	95	80	80		0.83		
空港年間着陸回数(宮古・下地島)	8,735	7,191	8,235	10,561		1.21		
空港年間乗降客数(宮古・下地島)	1,929,127	1,136,408	1,060,636	1,732,670		0.90		
【参考】平均滞在日数	2.63	2.83	2.86	2.90				

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

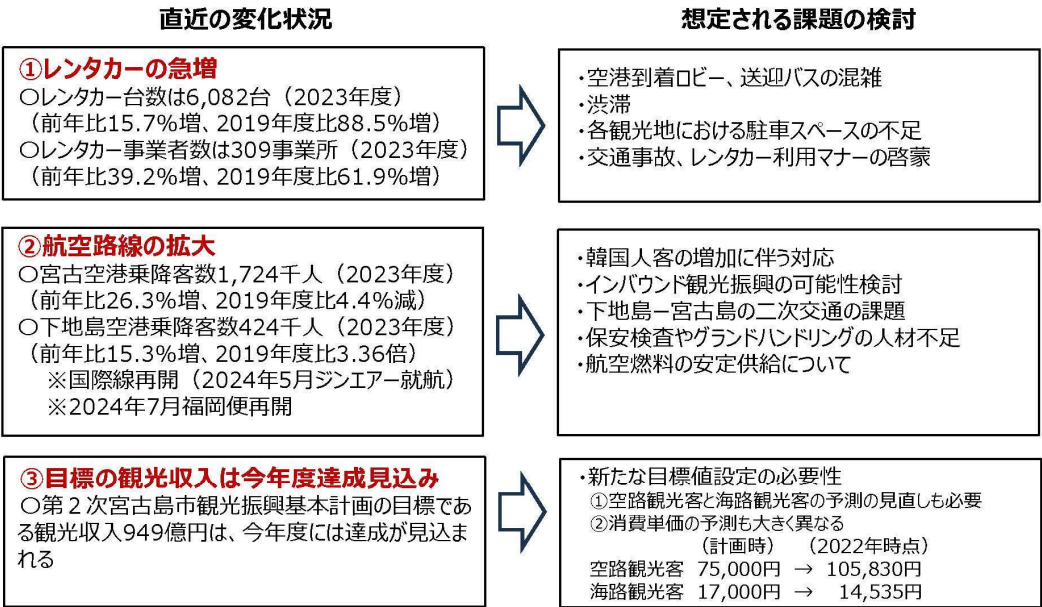
6

2022年度の滞在人口は、2019年度とほぼ同数であるが、関連するインフラの増加状況を見ると、電力と資源ごみ・危険ごみは増加しているが、その他のごみと水道についてはむしろ減少している。

↓ 基準年							備考
	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	2019年度→ 2022年度伸び 率	計画最終年度 (2028) (推計値)	
滞在人口（観光客及び居住人口）	61,168	58,365	58,838	61,311	1.00	68,726	居住人口とみなし人口の合計
人口増加数	1,013	-2,803	-2,329	2,946		7,559	2019年度からの増加数
増加率	101.7%	95.4%	96.2%	105.0%		112.4%	2019年度からの増加率
電力（消費量）：KWH	274,441,345	281,581,972	292,142,004	299,334,500	1.09	308,355,213	推定滞在人口に、2019年度の電力消費量÷2019年度の滞在人口を乗じて推計
水道（水量）：㎡	8,097,538	7,466,817	7,479,254	6,945,735	0.86	9,098,184	推定滞在人口に、2019年度の水道使用量÷2019年度の滞在人口を乗じて推計
ごみ（事業系含）の搬入量：トン	21,809	20,670	20,229	20,878	0.96	24,504	推定滞在人口に、2019年度のごみ処理量÷2019年度の滞在人口を乗じて推計
可燃ごみ	17,247	16,226	15,691	16,261	0.94	19,378	推定滞在人口に、2019年度の可燃ごみ処理量÷2019年度の滞在人口を乗じて推計
資源ごみ・危険ごみ	3,126	3,420	3,581	3,656	1.17	3,512	推定滞在人口に、2019年度の資源ごみ・危険ごみ処理量÷2019年度の滞在人口を乗じて推計
粗大・有害ごみ	1,436	1,024	957	961	0.67	1,613	推定滞在人口に、2019年度の粗大ごみ・有害ごみ処理量÷2019年度の滞在人口を乗じて推計

※みなし人口：観光客の宿泊数を365で除して、宮古島市の人口と見做した数字
※滞在人口：宮古島市の人口とみなし人口の合計

空路観光客の平均滞在日数は2.90日であるため、観光客一人が生活インフラに与える影響度は0.0079人分と計算できる（2.9÷365）
居住人口1人に該当する観光客数は125.86人であり、現在の宮古島市の人口55,690人に匹敵する観光客数は、700万人規模の空路観光客ということになる。
そのため、観光客向けインフラに比べ、生活インフラは、観光客の増加が及ぼす量的な影響のインパクトは大きくない。



2. 観光アンケートの通年化による 観光客の動態把握

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

9

通年アンケートによる観光客の動態把握

株式会社 JTB 総合研究所

観光客の利用の実情や課題をより詳しく把握するため、宮古島観光協会に委託している観光アンケートを
通年化するとともに設問を調整し、二次交通等の利用実態も把握できるよう取り組む。

【調査の概要】（案）

○調査方法

二次元バーコード付きの観光アンケートチラシ・ポスターを市内主要観光施設に配架し、
観光客がスマホ等で回答する。

○調査実施期間

2024年度中

○調査項目

- ①旅ナカ消費の実情把握（予算額、実際支出、販売機会ロス）※昨年度より継続
 - ②追跡調査による旅アト消費の実情把握（旅アトの消費行動、消費額）※今年度より実施予定
 - ③二次交通の利用の動態把握 ※今年度追加予定
 - ・調査の対象となる交通機関：路線バス、ループバス、レンタカー、タクシー、レンタサイクル
 - ・調査項目
- 認知について、利用経験、利用人数、利用の感想、満足度、利用意向、

○とりまとめの方向性

- ・観光客の属性、ニーズ、消費動向、満足度等の現状・過年度との比較
- ・販売機会ロスの可視化
- ・路線バス、ループバス、レンタカー利用車の動向把握から課題の抽出

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

10

【中間報告】 大学（観光学部・観光学科）へのアンケート調査

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

14

【中間報告】 大学（観光学部・観光学科）へのアンケート調査

株式会社 JTB 総合研究所

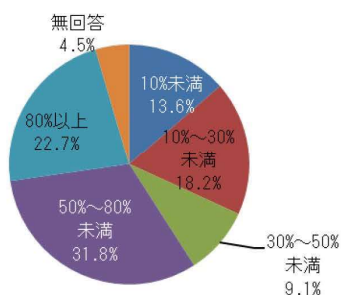
インターンシップの現状

観光系学部（学科）の学生のインターンシップ参加率は大学によりばらつきはあるが、50%以上参加している大学が54.5%にのぼる。

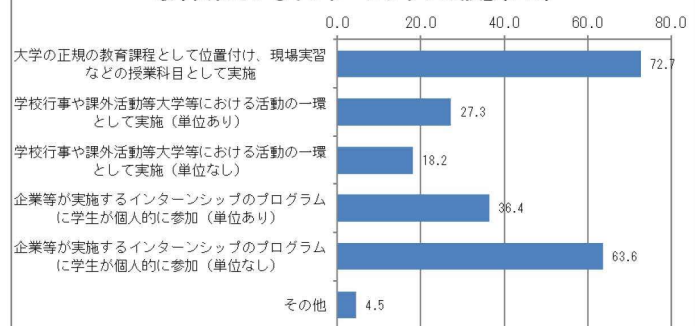
インターンシップの形態は、「大学の正規的教育課程として位置付け、現場実習などの授業科目として実施」（72.7%）や、「企業等が実施するインターンシップのプログラムに学生が個人的に参加（単位なし）」の二つが多い。

単位の有無では「単位あり」が合計136.4%で、「単位なし」（81.82%）より多い（複数回答）。

インターンシップ参加率 (n=22)



取り入れているインターンシップの形態 (n=22)



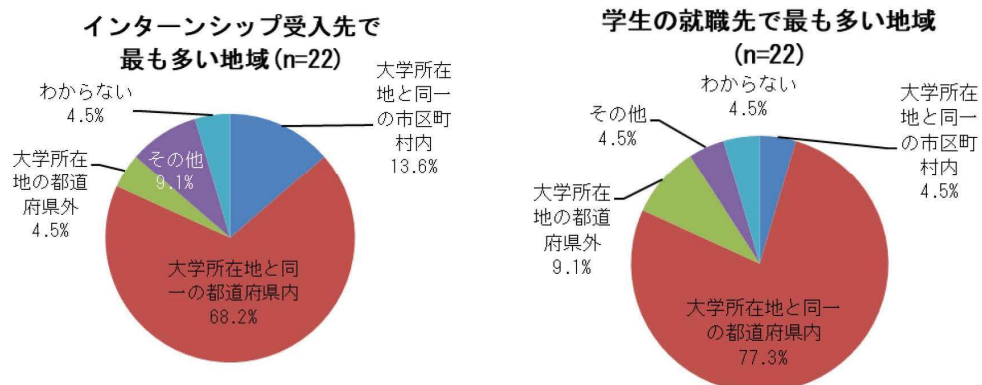
©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

15

インターンシップ受入れ先及び就職先の地域

学生のインターンシップ受入れ先地域では、大学所在地と同一の都道府県内（68.2%）が最も多く、これに大学所在地と同一の市区町村内（13.6%）を加えると81.8%が大学所在地の県内を選択している。

これに連動して就職先地域でも、大学所在地と同一の都道府県内（77.3%）が最も多く、これに大学所在地と同一の市区町村内（4.5%）を加えると81.8%が大学所在地の県内を選択している。



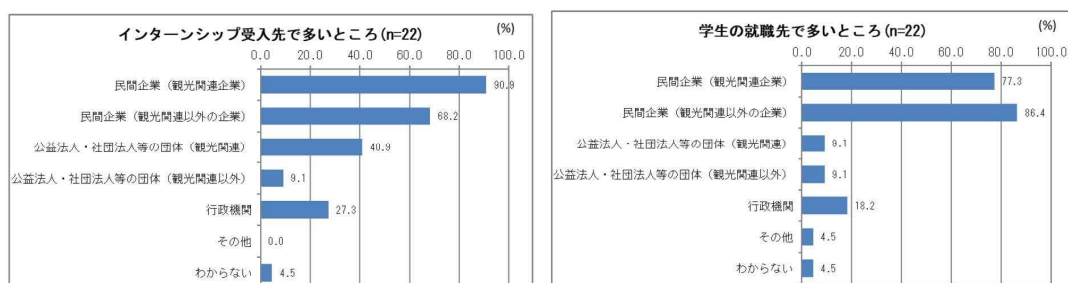
©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

16

インターンシップ受入れ先及び就職先

学生のインターンシップ受入れ先では、民間企業（観光関連企業）、民間企業（観光関連以外の企業）、公益法人・社団法人等の団体（観光関連）の順に多い。

就職先地域では、民間企業（観光関連以外の企業）、民間企業（観光関連企業）、行政機関の順に多くなり、インターンシップ先の順位に比べ観光関連企業と観光関連以外の企業の順位が逆転するほか、公益法人・社団法人等の団体（観光関連）は非常に少なくなる。



©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

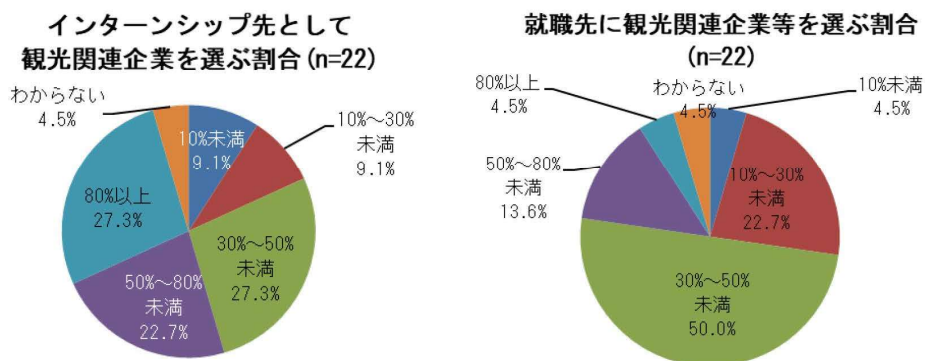
17

観光関連企業を選ぶ割合

学生のインターンシップ先として観光関連企業を選ぶ割合は、「30%～50%未満」「80%以上」（いずれも27.3%）、次いで「50%～80%未満」（22.7%）の順に多く、50%以上の回答が半数を占めている。

一方、就職先に観光関連企業を選ぶ割合は、「30%～50%未満」（50.0%）「10%～30%未満」（22.7%）、「50%～80%未満」（13.6%）となり、50%以上の回答は18.2%にとどまっている。

。

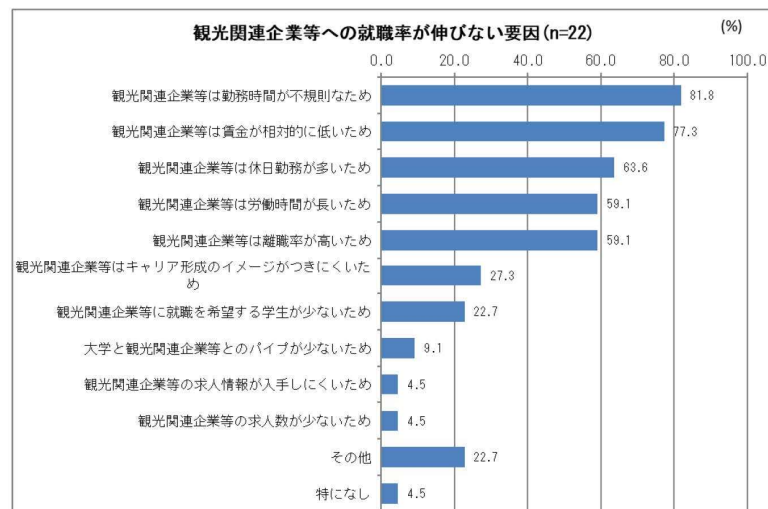


©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

18

観光関連企業等への就職率が伸びない理由

観光関連企業等への就職率が伸びない理由では、「観光関連企業等は勤務時間が不規則なため」「観光関連企業等は賃金が相対的に低い」「観光関連企業等は休日勤務が多い」「観光関連企業等は労働時間が長い」「観光関連企業等は離職率が高い」等、観光関連企業に内在する理由が多くあげられているが、一方で、「大学と観光関連企業等とのパイプが少ない」「観光関連企業等の求人情報が入手しにくい」など、企業と大学の繋がり弱さに起因する回答も見られる。



©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

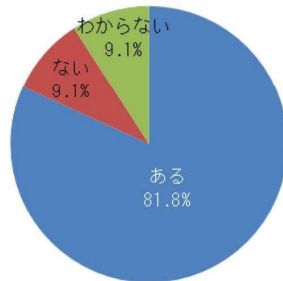
19

新たな観光関連企業・行政機関開拓の意向

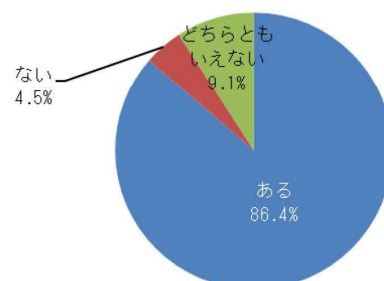
学生のインターンシップ先として新たな観光関連企業や行政機関を開拓する意向について聞いたところ、81.8%の大学が「ある」と回答した。

一方、就職先に新たな観光関連企業や行政機関を開拓する意向については、86.4%の大学が「ある」と回答した。

インターンシップ先に観光関連企業・行政機関を新たに開拓する意向 (n=22)



就職先に観光関連企業等や行政機関を新たに開拓する意向 (n=22)



©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

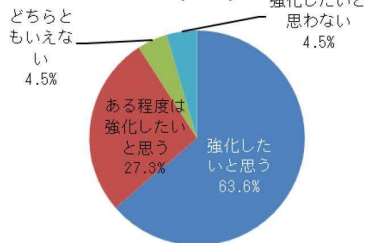
20

地域との連携の意向

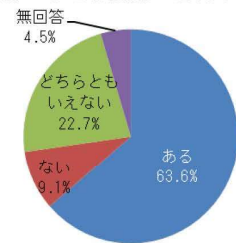
ほとんどの大学が観光における地域研究を行なうゼミを持っているが、ゼミの研究フィールドとして地域との連携強化や新たな地域開拓の意向をもつ大学は多い。

また、ゼミだけでなく学生の観光教育を考える上で、大学と地域（自治体等）とのネットワーク構築の必要性を感じている大学も多い。

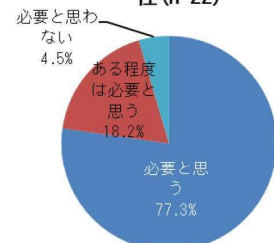
ゼミと地域との連携強化の意向 (n=22)



ゼミの研究フィールドとして新たな地域開拓の意向 (n=22)



地域とのネットワーク構築の必要性 (n=22)

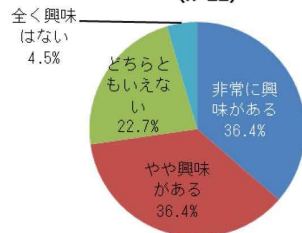


©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

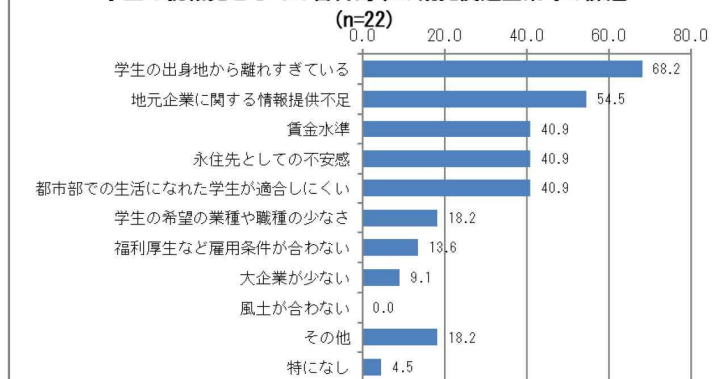
21

宮古島市の可能性

インターンシップ受入れ先やゼミの研究フィールドとしての宮古島市に対する興味度は、「非常に興味がある」「やや興味がある」（いずれも36.4%）で、合計72.7%の大学が興味を示した。
就職先としての宮古島市の課題では、「学生の出身地から離れすぎている」「地元企業に関する情報提供不足」「賃金水準」「永住先としての不安感」「都市部での生活になれた学生が適合しにくい」などの順に多くあげられており、出身地からの距離を別にとすると、多くは情報提供不足からくる不安感であるとみられる。

インターンシップ先や研究フィールドとしての宮古島市への興味
(n=22)

学生の就職先としての宮古島市の観光関連企業等の課題 (n=22)



宮古島市への要望等

大学から見ると沖縄本島までは射程距離に入っているようである。宮古島の独自性や魅力を伝えることで、学生の就職の道が開かれるものと推察。他地域にはない「宮古島モデル」の構築が必要である。

◆宮古島市への要望等（自由意見/抜粋）

- ・長期休みを利用したインターンシップやアルバイトには興味があるようです。その場合に課題になるのはアシとマクラです。本校は東京新宿にあります。上記問題をクリアして群馬などホテルのインターンを毎年出しています。最終的に実現できませんでしたが、ニセコのインバウンド向けホテルでのインターンを調整したこともありました。
- ・沖縄本島までは研修に行っておりますが予算が厳しいです。経済的支援を頂ければ離島も見せてやりたいです。
- ・私自身、宮古島の調査などをおこなって、観光における宮古島の成功を感じています。新しい価値共創を本学の学生にも機会を頂ければ幸いです。
- ・例えば研修などを行なう場合、交通費や宿泊費の負担をいかに軽減できるかが気になります。オンラインによる研修や交流があるといいかなと思います。
- ・今回はご連絡くださり感謝申し上げます。宮古島市のインターンシップ等の情報をもっといただければ、大変嬉しいです。
- ・現在、科学研究費助成事業により宮古島市および石垣島市の観光業における雇用に関して研究しています。ぜひ、今後情報交換などしていただけたら幸いです。
- ・インターンシップやフィールドワーク受け入れなどの情報を提供してもらいたい。
- ・沖縄本土へはインターンシップに参加する学生が毎年何人かおられます。プログラムに満足し、多くはありませんが、沖縄で就職する学生もおります。宮古島の魅力が分かれば、学生も興味を持つのではないかと思います。
- ・大学と観光企業の双方が恩恵を受けられる、よりよい仕組みや制度を常に考えています。宮古との接点は今のところ少ないですが、今後の可能性はあると思っています。
- ・沖縄出身の学生も一定数いるので、インターンシップなどの情報があればいただきたい。
- ・エコツーリズム関連のビジネスを活性化して欲しい。
- ・宮古島市で働きたくなるような魅力を提示して欲しい（特に留学生向け）。
- ・魅力ある地域なのは確かで、卒業生で宮古へ行く者も多い。それが定住に繋がるかが課題か。

(2) 第1回受入環境検討作業部会資料

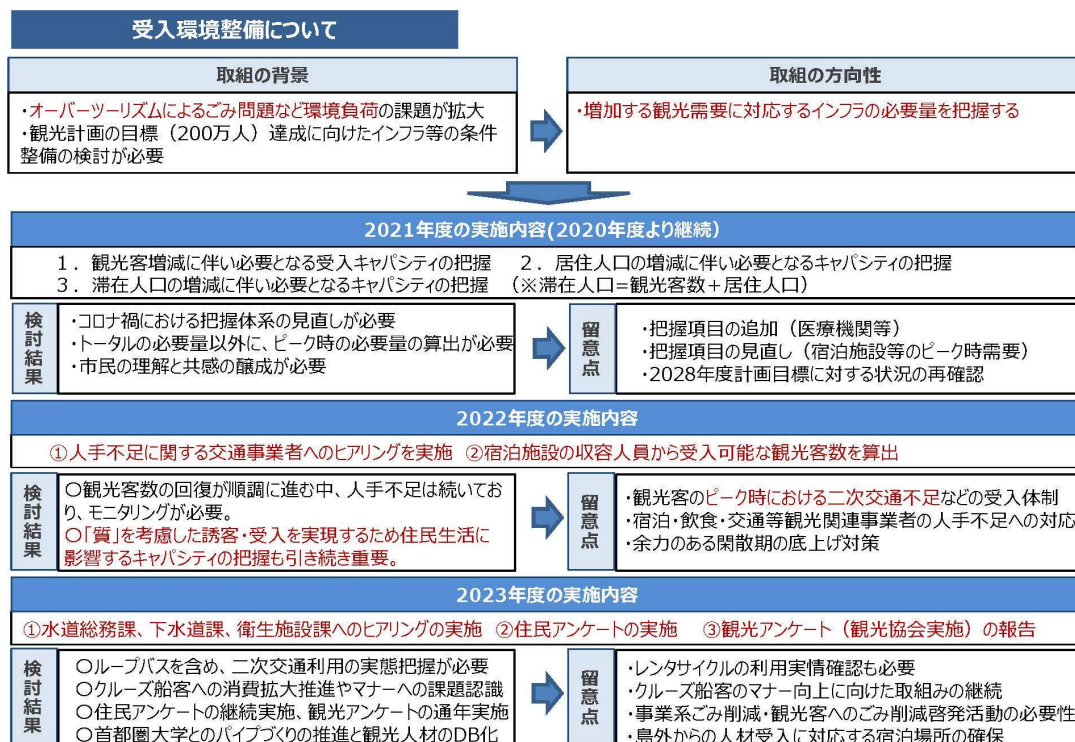
資料2

昨年度までのおさらい

令和6年8月

宮古島市観光推進協議会 事務局

昨年度までのおさらい



2

令和6年度の取組みについて ～受入環境の検討～

2024年8月

宮古島市観光推進協議会 事務局

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

受入環境の検討について

株式会社 JTB総合研究所

今年度は以下の取組を通じて宮古島市における観光客受入環境の現状・課題の把握や課題解決の推進を図る。

① 受入キャパシティのモニタリング

- 宮古島市における入域観光客数とその受け入れに必要な観光客向けインフラ、住民向けインフラについて、**その必要量や供給状況についてのモニタリングを行い、課題や必要な対応について議論していく。**

② 観光アンケートの通年化による観光客の動態把握

- 宮古島市に來訪する観光客の実態や意向、消費動向を把握することで、今後の市の観光推進における検討素材とする。
 - 旅ナカ消費の実情把握**（予算額、実際支出、販売機会ロス）
 - 追跡調査による旅アト消費の実情把握**（旅アトの消費行動、消費額）
 - 二次交通の利用の動態把握**
路線バス、ループバス、レンタカー、タクシー、レンタサイクルの認知、利用率
同乗人数、今後の利用意向等

③ 大学との連携による観光人材誘致

- 宮古島市への将来の就職希望者を増やすため、観光学部・観光学科のある大学に向けて、**インターンシップや就職に関する実情と意向を把握するためのアンケート調査を実施し、大学とのネットワーク構築を図る。**

住民の所得と生活の質の向上

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

2

1. 受入キャパシティのモニタリング

入域観光客数および滞在人口推計（2024年度）

株式会社 JTB 総合研究所

2023年度の入域観光客数は、938,178人で、2019年度比88%まで回復してきた。空路観光客数では2019年度を16%ほど上回っており、その結果観光収入は大幅に伸び、2019年度比143%の実績となっている。

2024年度入域観光客数の推計

2019年度に対する2023年度の空路観光客数の伸び率と、2022年度から2023年度の伸び率から推計した結果、2024年度の空路観光客数は、979,661人、人泊数は2,841,016人となり、海路観光客を含め1,000億円を超える観光収入を見込むことができる。

	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024) 推計	対前年 伸び率	計画最終年 度(2028) 目標	2024年度の推計方法 (2019年から2023年までは実績数字)
入域観光客数：人	1,061,323	359,592	434,969	736,990	938,178	1,139,871	121.5%	2,000,000	
（うち空路観光客）	733,391	359,592	434,969	736,639	848,559	979,661	115.4%	1,050,000	2019年度に対する2023年度の伸び率（115.7%）と、2022年度から2023年の伸び率（115.2%）の平均（115.5%）を前年実績に掛けて推計
（うち海路観光客）	327,932	0	0	351	89,619	160,210	178.8%	950,000	2023年4月～8月のクルーズ船1隻当り客数（1,574人）と、2019年度の1隻当り客数（2,755人）の平均値（2,165人）を、本年度12月までに入港予定の隻数（74）に掛けて推計
人泊数（空路観光客のみ）	1,928,818	945,727	1,230,962	2,106,787	2,460,821	2,841,016	115.4%	3,045,000	2022年度の平均滞在日数：2.90日を乗じて推計（沖縄県観光統計実態調査）
みなし人口（空路客）	5,284	2,591	3,372	5,772	6,741	7,783	115.5%	8,342	人泊数÷365
みなし人口（海路客）	449	0	0	0	122	219	179.5%	1,301	海路観光客÷365÷2
居住人口	55,434	55,577	55,466	55,539	55,690	56,353	101.2%	59,083	2019年度に対する2023年度の伸び率（100.46%）と、2022年度に対する2023年の伸び率（101.91%）の平均（101.19%）を前年実績に掛けて推計
滞在人口（観光客及び居住者）	61,168	58,168	58,838	61,311	62,553	64,355	102.9%	68,726	みなし人口と居住人口の合計
観光収入：百万円	63,634	35,044	42,390	77,963	91,105	106,006	116.4%	124,929	（空路観光客数×105,830円）＋（海路観光客数×14,535円） ※単位は「観光統計実態調査」（2022年度沖縄県）による

※2028年度の空路客と海路客は「第2次宮古島市観光振興基本計画」の目標値。
※2023年度以降の人泊数は、空路観光客に2022年度の平均滞在日数（2.90泊）を乗じて算出。
※2023年度以降の居住人口の推定は、2019年度に対する2023年度の伸び率（100.46%）と、2022年度に対する2023年の伸び率（101.91%）の平均（101.19%）を前年実績に掛けて推計。
※みなし人口
宮古島市滞在期間中の入域観光客を、宮古島市の生活インフラを消費する人口とみなしたもの。
※観光収入（当初目標）
第2次宮古島市観光振興基本計画における2028年度目標額は949億円である。

…伸び率の算出の基準年

…推計値

※みなし人口の推定方法
①空路客は1人あたり人口1日分で計算する。
（空路客入泊数÷365）
②海路客は1日のみの滞在なので、1人あたり人口半日分として計算する。（海路客数÷365÷2）
※滞在人口
みなし人口に居住人口を加えたもの。

2019年度を基準に、前ページで推計した2024年度の観光客数をもとに、必要となる宿泊施設収容人員・レンタカー台数・貸切バス台数及び空港の年間乗降客数を推計した。

	基準年					推計/必要量		2023年度の推計方法
	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和元年度 (2019年度)に 対する 令和5年度(2023 年度)の増加数	
入域観光客数	1,061,323	359,592	434,969	736,990	938,178	1,139,871	78,548	2023年度の空路観光客数の推計値と海路観光客数の推計値の合計
空路観光客数	733,391	359,592	434,969	736,639	848,559	979,661	246,270	2019年度に対する2023年度の伸び率(115.7%)と、2022年度から2023年の伸び率(115.2%)の平均(115.5%)を前年実績に掛けて推計
人泊数合計(空路観光客)	1,928,818	1,017,645	1,244,011	2,136,253	2,460,821	2,841,016	912,198	空路観光客推計値に、2022年度の平均滞在日数:2.90日をかけて推計
1日平均宿泊者数	5,284	2,788	3,408	5,853	6,742	7,783	2,499	人泊数合計÷365で算出
ピーク月(10月)宿泊者数推計	6,975	5,191	4,959	7,977	9,189	10,296	3,321	05年の月平均空路観光客数に対するピーク月(10月)の空路観光客の倍率(1.323)より算出
海路観光客数	327,932	0	0	351	89,619	160,210	-167,722	2023年4月～8月のクルーズ船1隻当り乗客(1,574人)と、2019年度の1隻当り乗客(2,755人)の平均値(2,165人)を、本年度12月までに入港予定の隻数(74)に掛けて推計
↓以下の推計値は、2023年度の乗客内の数値を基準として算出した各インフラの必要数量								
宿泊施設数	285	389	411	456	496	419	134	2019年度の空路観光客1人泊数当たりの宿泊施設数に、2024年度の空路観光客推計値(人泊数)をかけて推計
宿泊施設収容室数	3,935	4,775	5,599	5,908	6,537	5,785	1,860	2019年度の空路観光客1人泊数当たりの収容室数に、2024年度の空路観光客推計値(人泊数)をかけて推計
宿泊施設収容人員	10,215	12,739	15,063	15,870	17,823	15,045	4,830	2019年度の空路観光客1人泊数当たりの宿泊施設収容人員に、2024年度の空路観光客推計値(人泊数)をかけて推計
レンタカー台数	3,227	3,202	3,526	5,259	6,082	4,753	1,526	2019年度の空路観光客1人泊数当たりのレンタカー台数に、2024年度の空路観光客推計値(人泊数)をかけて推計
レンタカー従業員数(4社合計)	75	-	53	-	-	-	-	主要4社へのヒアリング結果
貸切バス台数	96	95	80	80	84	103	7	2024年度の入域観光客推計値を2019年度の入域観光客数で割り、2019年度の貸切バス台数を乗じて推計
貸切バス乗務員数(主要バス会社)	32	-	24	-	-	-	-	主要バス会社へのヒアリング結果
空港年間着陸回数(宮古・下地島)	8,735	7,191	8,235	10,561	10,106	11,668	2,933	2024年度の空路観光客推計値を2019年度の空路観光客数で割り、2019年度の年間着陸回数に乗じて推計
空港年間乗降客数(宮古・下地島)	1,929,127	1,136,408	1,060,636	1,732,670	2,232,067	2,576,920	647,793	2024年度の空路観光客推計値を2019年度の空路観光客数で割り、2019年度の年間乗降客数に乗じて推計

「空路観光客数」の伸び率から算出した推計→①空港年間着陸回数 ②空港年間乗降客数

※2021年以降の下地空港は国土交通省「空港管理調査」による。

「人泊数合計(空路観光客)」の伸び率から算出した推計→

①宿泊施設収容人員 ②レンタカー台数

「入域観光客数」の伸び率から算出した推計→ ①貸切バス台数

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

	・・・ 基準値
	・・・ 実績値
	・・・ 推計値

5

観光に必要なインフラの2019年度以降の伸び率をみると、宿泊施設、レンタカーは観光客数の増加を越える伸び率を示している。

一方貸切りバス台数は、2019年度時点から2022年度まで減少したままとなっている。

空路に関しては、2022年の着陸回数は2019年比で1.21となっているが、年間乗降客数は0.90にとどまっている。

年間乗降客数が減少した理由としては、宮古島市民の利用が減少した可能性も考えられるが、主な要因としては**空路観光客の平均滞在日数**が、2.63日から2.90日(+10%)に伸びたためと考えられる。

	基準年					2019年度→ 2022年度 伸び率	2019年度→ 2023年度 伸び率	算出方法
	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)			
入域観光客数	1,061,323	359,592	434,969	736,990	938,178	0.69	0.84	空路観光客数の推計値と海路観光客数の推計値の合計
空路観光客数	733,391	359,592	434,969	736,639	848,559	1.00	1.14	
海路観光客数	327,932	0	0	351	89,619	0.00	0.27	
人泊数合計(空路観光客)	1,928,818	1,017,645	1,244,011	2,136,253	2,460,821	1.11	1.24	空路観光客推計値に、当該年度の平均滞在日数(2022年度=2.86日、2023年度=2.90日)をかけて算出
ピーク月(10月)宿泊者数推計	6,975	5,191	4,906	7,867	9,062	1.13	1.30	05年の月平均空路観光客数に対するピーク月(10月)の空路観光客の倍率(1.323)より算出
宿泊施設数	285	389	411	456	496	1.60	1.77	
宿泊施設収容室数	3,935	4,775	5,599	5,908	6,537	1.50	1.64	
宿泊施設収容人員	10,215	12,739	15,063	15,870	17,823	1.55	1.77	
レンタカー台数	3,227	3,202	3,526	5,259	6,082	1.63	1.84	
貸切バス台数	96	95	80	80		0.83		
空港年間着陸回数(宮古・下地島)	8,735	7,191	8,235	10,561		1.21		
空港年間乗降客数(宮古・下地島)	1,929,127	1,136,408	1,060,636	1,732,670		0.90		
【参考】平均滞在日数	2.63	2.83	2.86	2.90				

©2024 JTB Tourism Research & Consulting Co. All Rights Reserved. 禁無断転載・複製

6